

授業科目の概要

(2025年度実施内容。2026年度には一部変更の可能性があります)

▶ 研究科共通科目

言語習得論 担当:相羽 千州子

第二言語習得に関する諸理論、習学者の傾向などに対する知識・理解を深める。特に外国語としての英語(または他の言語)習得・教授の問題点に焦点を当て、議論をしながら、より良い教授のあり方を考える。

語用論 担当:時本 真吾(日本語・日本語教育専攻所属)

言語使用上の規則性を考察する語用論(Pragmatics)の最新知見を議論する。コミュニケーション総体における言語の位置、指示、発話文の意味と話者の意図、発話の丁寧さ、発話理解における推論の働きなどを学ぶ。

音声学特論 担当:石原 健(日本語・日本語教育専攻所属)

さまざまな音声現象を先行研究の成果と併せて検証し、受講者それぞれが母語、もしくは専攻外国語のデータを分析し、言語音声の個別言語的な特徴と普遍的な性質を考察する。

対照言語学特論 担当:時本 真吾(日本語・日本語教育専攻所属)

日本語を中心として、英語・中国語・韓国語などを取り上げながら、言語の共通性と個別の特徴の理解を深め、言語教育の実際の場面に役立たせることを意図する。

言語統計論 担当:時本 真吾(日本語・日本語教育専攻所属)

実験を利用した言語研究に必要な計画法・測定法・統計解析の基本的な事項について理解し、言語学・言語教育学上のさまざまな問題に実験的に取り組む方法を考察する。

国際理解特論 担当:齋藤 ひろみ

ユネスコの国際理解教育を中心に開発教育、海外子女教育など国際理解に関わる種々の論について概観し、その時代における国際理解とは何か、その概念構造について知見を得る。

異文化研究史論 担当:鎧屋 一

文化的な社会的「他者性(otherness)」がいかに認知され、知的体系の中に組み込まれてきたか、既成の世界観の修正が求められてきたのかという観点から、異文化研究の歴史を考察する。

政治言語文化論 担当:中前 吾郎

日常の政治用語からメディアなど広く現象する政治言語を考察する際の理論を探究し、政治言語が持つ象徴機能の文化的背景について考察する。

日本民俗文学論

日本各地に生きた多くの無名の人々の、実生活の堆積の中に成長していった多様な心のあらわしが、文学作品という形で定着した経緯を解き明かし、日本人全体の心性の特徴を考察する。

比較文化研究

担当:飛田 满(国際交流研究科 国際交流専攻所属)

文化の中でも思想、特に西洋思想について理解を深める。西洋思想の二大源流であるキリスト教思想と古代ギリシア思想、西洋近代思想の主流となった大陸合理論と英國経験論およびドイツ觀念論の思想を比較対照し類型論的な考察を試みる。

比較宗教研究 担当:西沢 史仁

仏教は、その発祥の地インドから東アジアへと広く伝播した教えであり、日本文化の重要な基盤の一つを形成しているが、現代の日本人にとって「残念ながら近くて遠い存在」となっている。本講座では仏教を基軸に据えて宗教のあり方について考察したい。

アメリカ研究 担当:浅野 一弘

アメリカについての情報は得ているものの、その実態を熟知していないというが正直なところではないか。そこで、大統領ごとのトピックに注目して、同国の政治・経済・社会・文化に関する検証をおこなう。

アジア研究 担当:倉橋 圭子

東アジアにおける人やモノ、情報の交流の歴史的展開を、外交・通商・留学・技術移転などの事例から多角的に考察し、現代のアジアにおける交流のあり方を検討するための基礎的知識を修得する。

ハイブリッド型授業の実施

本学では、対面・遠隔を併用したハイブリッド型で授業を実施しています。

ヨーロッパ研究 担当:堀内 直哉(国際交流研究科 国際交流専攻所属)

近代以降のヨーロッパの国際政治情勢について、ドイツの動きを中心に分析していく。特に1871年のドイツ帝国設立後のドイツの对外政策に焦点を絞りながら、激動のヨーロッパの近現代史を考察する。

イスラム研究 担当:石田 信一

イスラム教の基本的教義や歴史的発展および現代的な諸問題について概観するとともに、イスラム世界と非イスラム世界(欧米・日本)との関わりについて比較文化論的および国際関係論的な視点から考察する。

多文化心理援助学特論 (2025年度は開講せず)

異文化接触のメカニズム、異文化受容と適応などについて学ぶとともに、外国人に繋がる人々の多様な問題を把握し、異文化間の適応と援助方法について理解を深める。

▶ 専攻科目 専攻共通科目

東アジア古典文化研究 担当:中前 吾郎

比較文化論的大局的な観点から、東アジア各國の古典文化の受容と変容を概観し、漢字文化圏、儒教文化圏などの概念化の意味について中国、朝鮮・韓国、日本から事例を取り比較検討する。

東アジア現代文化研究 担当:鎧屋 一

東アジアの経済成長点において、サブカルチャー面での統合は、民族的文化的異質性を凌駕する勢いを見せており、このような東アジア現代文化とも呼ぶべき文化現象の構造について考察する。

東アジア言語研究 担当:金 敬鎬

漢字文化圏である中国・韓国・日本における漢語の実態について、翻訳語を中心取り上げ、その影響などを考察する。

東アジア思想研究 担当:小林 寛

近代の中国、韓国・朝鮮、日本の思想的交流について考察し、相互の影響関係を検証する。対象事項を取り上げて、交流関係を比較論的に検討する。

▶ 専攻科目 中国言語文化

中国言語論 担当:張 瑞華

中国言語の軌跡を文字の誕生から現在使用されている簡体字まで、その変遷の過程と特徴を探り、形・音・義という3つの要素から構成されている中国言語がどのように創造され、規範化され、そして変化してきたかを考察する。

中国文化論 担当:鎧屋 一 (2025年度は開講せず)

儒教と道教を頂点とする伝統文化とその体系、西洋化・近代化以後の文化変容と不適応の問題など、各時期各位相の中国文化に対してなされてきた体系化の試みを概観し、特徴的な問題について考察する。

中国現代文法論 担当:張 瑞華

現代中国語の文法を統辞法、品詞論、文論、造語法などの側面から検討し、また中国語の文の構造と日本語の文の構造とを比較し、中国語の特徴を理解する。さらに日本の研究者の論文を取り上げ、研究の視点と分析の方法を学ぶ。

中国文化伝播論 担当:陳 力衛

日本語の中でも大きな位置を占める漢字・漢語の問題を取り上げ、その歴史的な変遷を辿って現在に至るまでの姿を理解する。日本人の手によって作られた漢字・漢語を分析し、その傾向と特徴を把握する。

中国社会文化研究 担当:胎中 千鶴

中国社会に見られる文化的特徴について、地域、風土、民俗、階層、家族、婚姻、祭祀、儀礼、生育、組織、制度などの各側面から考察し、中国の社会文化に関する研究方法および現在の研究状況について概観する。

中国歴史文化研究 担当:胎中 千鶴 (2025年度は開講せず)

中国史において通時に見られる文化的特徴、および中国の古代、中世、近世、近現代の各時代における、権力、軍事、人口および日中関係の各側面の共時的特徴と諸問題について考察する。

中国メディア研究 担当:胎中 千鶴

主に中国および台湾社会のメディア状況を取り上げ、多面的な考察を試みる。近現代中国・台湾社会やそれを取り巻く国際関係にメディアが与えた影響力とはどのようなものかを検証する。

中国言語書誌研究 担当:陳 力衛

中国言語書誌に関する基本的な知識を教授とともに、漢籍の日本における受容を問題にし、その受容形式にも目を配り、歴史的にその変遷を辿っていく。一方、日本人の手による日本漢文も研究対象となる。

中国現代文学研究 担当:張 瑞華

中国現代文学研究に関する日本人研究者による文学史論(五・四新文学運動から現在にいたるまで)、作家論(魯迅、郁達夫などを対象に)、作品論(日本文学との比較を含む)を取り上げ、文学研究の視点、論じ方などを検討する。

中国言語翻訳演習 担当:張 瑞華

中国語検定試験の準1級・1級や全国通訳案内士試験の合格を目指し、筆記試験の問題、特に翻訳の問題を取り上げ、中国語を日本語に、日本語を中国語に訳すテクニックを身につけ、幅広い知識を修得すること、実践的な翻訳力を鍛えることを目標とする。

中国言語通訳演習 担当:張 瑞華

文化交流や講演などの場面での通訳の仕方を学び、日本語から中国語へ、中国語から日本語へのより高度な語学力、幅広い表現力を身につけ、学術交流や文化交流などの通訳を担当できることを目指す。

中国言語表現演習 担当:張 瑞華

日中間におけるビジネス商談の各場面での通訳の仕方・表現を学び、ビジネス用語、異文化の理解、商習慣などの関連知識をも修得し、さらに模擬通訳を通して、ビジネス通訳として活躍できることを目指す。

▶ 専攻科目 韓国言語文化

韓国言語文化研究 担当:小林 寛

言語文化を言語活動の背景にある文化事象から捉えて検討する。言語文化を広義に捉えて検討することから、韓国語文献読解および漢文読解を併用する。

韓国語文法研究 担当:金 河守

韓国語の文法の特性を論考する。韓国語の文法を発音と文字、体言と用言、自立語と付属語などの側面から、それぞれの用法の特性を検討する。

韓国語史研究 担当:金 河守

韓国語史を論考し検討する。韓国語の時代的特徴と文法的変遷とを論考の対象として、それぞれの時代の特性によって韓国語の特質を明らかにする。

韓国語音韻研究 担当:金 敬鎬

韓国語の音韻の特性を言語学の面から検討する。韓国語の音韻体系と音韻構造を理解し、日本語の音韻体系との比較を通じ、両国語の音韻の相違点と音韻と関わる表記について考察を行う。

韓国語通訳翻訳研究 担当:金 敬鎬

韓国語と日本語との間の通訳と翻訳を実践的に行ながる学問的な検証を加える。韓国語と日本語との翻訳・通訳に際しての誤りやすい例文を取り上げ、それが発生する原因と対処法を検討する。

韓国語教育研究 担当:曹 永宝

韓国語教育に関する背景知識として、韓国語の文法、聴解、会話、読解、作文、語用論、異文化理解などについて概説し、韓国語教育領域に関わる専門知識を学ぶ。

韓国語科教材研究 担当:曹 永宝

韓国語教育の際、効果的に教材を利用するために、さまざまな観点から教材を検討し韓国語教材の特徴を把握する。教材開発の観点から、教育教材と教授法のあり方を考察する。

韓国中世近世文学研究 担当:徐 寅錫

韓国の中世、近世の文学を検証し論考することで、韓国文学の時代的特徴を実証的に明らかにする。韓国と日本の中世および近世文学を比較論的に論考の対象として取り上げ、韓国と日本の文学の特性を明らかにする。

韓国近代文学研究 担当:徐 寅錫

韓国と日本の近代における文学を論考することで、韓国文学の特徴を実証的に明らかにする。韓国と日本の近代における文学を比較論的に論考の対象として取り上げ、韓国と日本の文学の特性を明らかにする。

韓国語教育研究・実習 担当:曹 永宝

「外国语としての韓国語教育資格」取得のための実習に向け、実践的な研究を行う。教案作成、教材作成、教授方法、評価方法などを実習し、指導上の問題点についても考察する。

▶ 専攻科目 臨地研究

臨地研究1(短期)・2(長期)

複数の教員が担当。中国語圏あるいは韓国語圏の教育機関または研究機関・企業など、学生の研究テーマに関わる地域に赴き、言語文化調査・言語教育の実習などを実行。短期は60時間、長期は120時間の期間を要する。

▶ 研究論文指導演習

研究論文指導演習1~4

複数の教員が担当。研究論文作成のための演習科目であり、テーマの設定、文献資料の調査について指導教員の助言に基づき研究論文の作成を進める。

カリキュラム (修了要件:30単位以上)

科目名	単位数 必修 選択	配当年次	備考
言語習得論	2	1・2	
語用論	2	1・2	
音声学特論	2	1・2	
対照言語学特論	2	1・2	
言語統計論	2	1・2	
国際理解特論	2	1・2	
異文化研究史論	2	1・2	
政治言語文化論	2	1・2	
日本民俗文学論	2	1・2	
比較文化研究	2	1・2	
比較宗教研究	2	1・2	
アメリカ研究	2	1・2	
ヨーロッパ研究	2</td		